

すざか 農業委員会だより

第49号

発行編集
須坂市農業委員会
電話(026)245-1400
内線 3772



品質に自信を持って、えのきの栽培に励んでいます。

J A 須高総合共撰所の出荷作業



- 須坂市の農業振興について三木市長に
お聞きしました。
- 市議会議員との農政問題懇談会開催
- 平成16年度農林予算決まる
- 農業委員会部会活動報告
- 農業サポートセンター2年目に向けて
- 鳥獣害対策に関する建議書提出
- 生き生き農家／農家に嫁いで

栽培きのこの価格も、他の農産物と同様に、低迷が続いています。生産者の皆さんは、需要の増大と価格上昇に期待を込め、品質のよいものを作るための努力を日々続けています。

須坂の
きのこ栽培

須坂市の農業振興について

三木市長にお聞きしました



私が小
学生の頃
までは、
両親がと
もに農業

をしていました。牛、鶏、ウ
サギも飼っており、夕方牛を
千曲川の堤防から連れてくる
のが私の日課でした。両親は
朝早くから夜遅くまで働いて
いました。そんな訳で農業に
は強い思いがあります。

私の市政運営の基本目標は、
「活力、文化、誇りがみなぎ
る田園環境都市須坂の創造」
です。これは、活力がある農
業、農村の中で、営々として
育まれてきた祭りなどの歴史
や文化を大切にし、誇りの持
てる田園地域を維持、創って
いくというものです。

このための施策の一つとし
て、農業小学校の設置があり
ます。農業小学校は、地域の
皆さんが先生となり、年間で
通して小学生に様々な農業体
験や伝統文化活動を行うこと
により、農業の苦しさ、楽し
さや自然の素晴らしさ、厳し
さ、また、地域への愛着、誇
りを感じてもらえるものです。
私は、農業、商業、工業、
観光、福祉など各分野で現状

をきちんと認識した上で、悲
観せず何とか閉塞感を打破し
ようとする前向きな方々、グ
ループと知り合うことができ、
これらの方の異業種交流によ
り、須坂の活性化は可能だと
感じています。農業の活性化
にも異業種交流は効果的です。
例えば、須坂の産産が一同
に会して展示、即売を行うこ
とにより相乗効果を発揮して
須坂の活性化を図る目的で、



三木市長に取材する
情報委員会 佐藤、西澤正副委員長

店街に出
店をする。
須坂には
りんご、
ブドウ、
味噌、菓
子など様
々な売れ

9月には産業展を開催します。
そのほか構想ですが、商店
街に朝採りの無人直売所を設
置する。(飯田市で実施中で
すが、好評です。)農家、商店
などが協力してそれぞれの品
物をインターネットの仮想商

市議会議員との 農政問題懇談会開催される

去る2月20日、市議会議員
と農業委員との農政問題懇談
会が、須坂市消防本部3階会
議室において行われました。

初めに、長野県農業総合試
験場長の有元達知氏から「須
坂市の農業、農村に期待する」
と題して講演して頂きました。
お話の中で、生産現場に直結
し、地域農業に即応できる知
恵、工夫、想像力を生かした
革新的な技術の開発を考えて
いく中で、今、10年サイクル
で品種切り替えを考えていく
必要があると言われました。
ぶどう新品種の開発や、施設
栽培下での黄桃有望品種の早

期結実法、りんごに関しては、
青森の12月集中を考え、9、
10月出荷品種に切り替えてい
く必要性。また「安心、安全
うまい」を考えてゆく中で、
他とどう差を付けていくか。
安いものが出回っているが本
物を作っていく必要性。

須坂市には県機関が18あり、
人口1万人当たりの機関数か
ら見ると県下1位です。地元
にこんなに県機関がありなが
ら有効利用されていない事は
残念。須坂市には園芸高校も
あり、地域を活性化する為
に、高校生のアイデアが生か
される研修の場を与えること

筋商品がありますが、個人で
インターネットを活用するの
は負担が大きくなりますので
共同で行うことにより効率
が図れます。(既に計画の方
がいらっしゃいます。)観光ツ
アーへの農業体験の組み入れ
などもあります。

須坂には、他に誇れる農産
物、個性豊かな地域がありま
す。これらに熱意あふれる農
業者の方々の知恵と努力、そ
して多くの方々の協力、連携
があれば、須坂の農業は大き
な可能性があると確信してい
ます。頑張りましょう。

が大事であると話されました。
続いて意見交換に入り、活
発な討議がされました。
小布施で1反から利用でき
るという特区許可が設けら
れているが、須坂市も特区
許可申請すれば遊休荒廃農
地解消になると思われるが
どうか。



市議会・農業委員会 農政問題懇談会

1反で畑が貸し借り出来れ
ば具合がいいというが、果
たして正しく農地利用され
るならよいが、物置や資材
置き場とされてゆく事も考
えられる。
特区は、農業生産の拡大に
つながらないという意見も
ある。一部的なものである。
1反特区は気を付けてやら
ないといけないと思う。
地域活性化に向けてなにか
いいアイデアはないか。
農業をどうしていくか。現
在、須坂市の食と農の基本
計画100人委員会がスタート。
今までなら農業振興は行政
から一方的な農業政策が打
ち出されていたが、市民が
ボランティアで政策を行っ
ていく事はすごいことだ。
新しい農業の発展につなが
り希望ある100人委員会であ
る。
四賀村では農園付き住宅が
売れているが須坂には無い
のか。峰の原、菅平では高
原野菜の農業体験を受け入
れているが、須坂市でも、
山間地の景観を生かし、豊
丘活性化施設利用し連携し
ていけないだろうか。
ヨーロッパでは、美しい村
コンテストなどがあり、こ
れが観光資源になっている。
しかし、須坂は美しい景観

平成16年度農林予算決まる

農林水産業費5億7千8百万円

平成16年度予算は、市税の減収、交付税・国庫補助金の削減といった厳しい財政事情の元で編成されました。

このような状況の中で、農林課では、現在の須坂市農業が抱える諸課題、特に遊休荒廃農地の解消や有害鳥獣対策、後継者問題、果樹の新品種導入などに鋭意取り組み、農業経営の安定と発展に努めてまいります。

平成16年度の農林課所管の当初予算は5億7千8百万9千円で、15年度に比べて1億6千4百万円余の減額となりました。減額となった主な理由は、森林空間総合整備事業及び県営農道環境整備事業の鎌田山地区の工事の終了によるものであります。

主なる施策は次のとおりです。

○農業振興対策事業

明日の農業を考える会による農産物直売所設置について、引続いて研究をしてまいります。

また、ゼロ予算事業であります。また、ボランティアの皆さんによる「食と農の基本計画策定」100人委員会を開催し、

17年度内の策定を目指して積極的に取組んでまいります。

○園芸振興事業

ふじ、巨峰に代わる果樹の優良苗木の導入助成をはじめ、性フェロモン剤活用による低農薬農法の推進に努めてまいります。

○有害鳥獣駆除対策事業

被害が拡大しているサルやイノシシによる農作物災害を最小限に食い止めるため、猟友会の協力を得ながら、捕獲用の檻等を増設するなどの対策を講じます。

○農業後継者対策

引続いて農業後継者グループの育成と、新規就農者に対する研修支援を行ってまいります。

○農業経営基盤強化対策事業

2年目を迎える農業サポートセンターに対する負担金のほか、引続いて遊休農地解消対策事業、中山間地域直接支払制度交付金等を活用してまいります。

○畜産振興事業

耕作放棄地に牛を放牧し飼料増進を図る飼料作物生産拡大事業や営平牧場の草地整備事業補助金等を計上しました。

○農地防災施設

中島排水機場のエンジンのオーバーホールを行い、農地防災の万全を期してまいります。

○土地改良事業

農道改良3路線、農道舗装3路線等を計上するとともに、基盤整備事業として相之島地区の圃場整備・農道整備事業の測量設計費及び換地計画費を計上しました。

○かんがい排水事業

川瀬川樋管水門の改修工事を行います。

○林業振興事業

松くい虫防除対策事業として、引続いて地上及び空中の薬剤散布、被害木伐倒駆除等の費用を計上いたしました。

間伐対策事業では、森林機能増進パイロット事業、森林整備地域活動支援交付金等を計上し、森林の環境整備に努めてまいります。

林道開設事業では、引続いてうつくし線、米子不動線改良工事に取組むとともに、県営林道戸谷沢線開設事業負担金を計上しました。

国会議員との懇談会開催

昨年11月30日、県民文化会館で県選出国會議員6人と農業会議・長野・須高・中高・飯水の農業委員との懇談会が行われ、当農業委員会からは会長を含め3人が参加しました。まず次の4点の要請が行われました。

- 一、農地の利用集積と担い手の確保・育成対策について
- (1) 優良農地の確保対策及び農地の利用集積促進
- (2) 担い手確保、育成及び経営安定対策
- (3) 米改革の推進について
- (4) 鳥獣害防止対策の強化
- (5) 中山間地対策
- (6) 食の安全・安心確保
- (7) 国産農産物の消費拡大

- 二、農業委員会系統組織の活動・組織に係る制度の充実・H16年度予算の確保
- 三、WTO農業交渉について
- 四、「食と農の再生」と農業委員会の活動・組織の改革に関する農業委員会大会の申し合せ決議について。また、各地域から次の様な要望、意見が出されました。

- ①中山間地直接支払い制度を継続充実してほしい。
- ②自給率の価格等の低下、輸入増大の中、何を作ればよいのか。このままでは経



国会議員との懇談会

が工業製品で壊れてきている。土、石、レンガ、鉄、瓦などの天然素材の物にし、美しい景観作りに心がけていきたい。等々。

そのほかにも、多くの意見が出され、大変有意義な懇談会となりました。

- ③有害鳥獣対策で銃等の規制の緩和、特に猿害で中山間地の人は住めなくなる。
- ④混合農薬問題等の早期解決。
- ⑤合併で農業委員の数が削減されればパトロール等農委会活動が更に大変になる。
- ⑥農村・農業の果たしている役割をもっと広めてほしい。
- ⑦食農教育の前進を等々。

以上のとおり熱心に懇談が行われました。一方、私達が直面している農村・農業の現実と国會議員の方々の認識の隔たりも様々な点で感じられました。今後この農政懇談会をより発展させ、農政に反映させていくためには、もっと農業委員会として各地域の抱えている課題をより具体的に分かりやすく整理し、国へ大いに要請してゆく事が大変大事ではないかと思えます。

農業委員会 部会活動報告

農業振興対策部会

近年猿ばかりでなく、イノシシが多く出没し、大変被害が出ているということで、9月に井上地区・東地区の視察を行いました。今年は昨年より被害が倍増しているのとこのことでした。農業委員会としても、捕獲器具の増設、狩猟免許取得者の増員等を盛り込み須坂市へ建議書を提出し、対策を要望いたしました。

また、荒廃農地解消対策にヤコン栽培をという事で、川田の千曲ヤコン組合を視察いたしました。ヤコンにはフラクトオリゴ糖や食物繊維が多く含まれ、近年健康食品として注目を集めておりますが、まだまだ市場流通が少なく、様々な課題が多くあるとのことでした。その後豊丘地区で、農業委員会が中心になりヤコン研究会が発足し、荒廃農地解消に今後期待されます。また、11月には、姉妹都市三浦市を訪問し、須坂市の農産物の消費宣伝のための対面販売を行い、交流を深めてまいりました。

12月には、須坂市内の農村

工業研究所を視察しました。

J A の技術開発部署として残留農業の検査、エノキダケの制がん研究、キノコの品種改良開発、検査等、花卉優良品種育成等が研究されており、長野県の農業の振興に大変役に立っているとのことでした。

農業振興対策部会では、今後とも少しでも須坂市の農業発展に役立てるよう幅広く見聞を広め、研究してゆく所存です。

農地対策部会

農家の皆さんが安心して農業が営まれるよう、環境を整備していく。をテーマに活動を進めております。

前期より引き続き調査・研究、対策を行っている陸砂利採取については、建設事務所より一時転用の審査・許可については農業委員会で行っております。農地部会では、陸砂利採取が正しく行われているかパトロールをする共に、埋め戻し後農地としてどのよう利用されているか実態調査を行っております。

過去5年間に陸砂利採取を

行った農家の皆さんへのアンケート調査を行い、現在まとめているところで、結果を見ながら対処をして参りたいと思います。

去る8月には、サル、イノシシの被害が増大する中で、現地調査を部会として実施しました。当日は、サルが出る時間帯といわれる昼休み時に行いました。最近になってイノシシの被害の多い井上地区においては、被害にあわれた地元の皆様の生の声をお聞きし、被害を見る中で農業委員として何らかの対策をしなければならないと感じました。

高速道沿いの融雪剤による果樹の凍害については、公団の対策等によって被害が少なくなっておりますが、大きな被害が出た場合には、部会として調査し、対処をしていきたいと思っております。

後継者対策部会

長野県の農業構造で世帯構成は三世代の割合が33%（全国は39%）で、二世代の割合が増しています。子と孫が別世帯であったり、農業後継者の婚期が遅れている事にもあります。この数値は農業基盤が不安定で弱体化しているこ

とを示しています。農業後継者の育成は急務ですが、多くの問題点があります。その一つが結婚問題です。当委員会でも農業後継者の結婚相談所を設置しますが、ここ数年開店休業状態です。先に、市長への建議で、結婚に世話好きの方の育成を図ることを要望しました。これは、今以上にプライバシーの保護や長期にわたり情報収集・交換が可能と考えられますので、今後期待するところです。

家族経営協定は、農村生活マイスター、女性農業者セミナー受講生など、女性の立場からの推進があります。一方男性の立場から見ると、家族間で取り決めるのは水臭い。うまくやってきたのだからいまさらと、ダメになる事が多いのです。この推進にあたり農業委員は手本となることです。現在協定を締結した委員は11人、うち女性委員は4人全員です。少子高齢化社会では介護、相続で不測の事態になりかねません。次世代に向け第一歩として検討してみたい。

今後、組織サークルとの意見交換、アンケート等を実施しながら、より良い後継者対策を計りたい。

農業委員会活動記録 (15年11月～16年3月)

11月3日	三浦市で農産物対面販売
6日	農振除外地調査
12月1日	農業後継者対策部会
17日	遊休農地1筆調査
12月12日	鳥獣害対策に関する建議書提出
20日	須高地区農業委員会協議会役員会
26日	11月定例総会
30日	長野県選出国議員との懇談会
12月1日	須高地区農業委員会協議会役員会
5日	農村女性フェスティバルに参加(女性委員)
9日	農業振興対策部会
17日	農地対策部会
12月14日	須高地区農業委員会協議会役員会
25日	12月定例総会
1月14日	衆議院調査局による現地調査
15日	部長・ブロック長会議
28日	県常任議員と女性農業委員の会との意見交換会
29日	情報委員会
2月10日	1月定例総会
14日	農業後継者結婚相談推進大会
2月16日	農業振興対策部会
20日	農業サポーターとのそば打ち体験交流会
23日	農地対策部会、農業後継者対策部会
26日	農家と農業サポーターとの交流会
3月27日	市議会議員との懇談会
2月20日	情報委員会
2月26日	2月定例総会
3月27日	須高地区農業委員会全員研修会
3月2日	認定農業者との意見交換会
5日	農業委員会活性化セミナー
29日	三木市長と情報委員会正副委員長対談
3月29日	農振除外地調査
3月29日	3月定例総会
3月29日	情報委員会

農業サポートセンター2年目に向けて

2月16日、須坂温泉古城荘において、農家と支援者との交流会が行われました。昨年の農繁期から、久し振りの再会に、会話も弾み、農家と支援者との信頼関係が一層深まったように思いました。また、交流会の中で、今年1月にサポーター及び登録農家を対象に実施した労力支援アンケートの結果報告を、プロジェクトを使って行いました。農家の求めに応じた労力支援は、延べ作業日数1542日、作業時間が11748時間に及び、初年度にも関わらず、大変好評でした。集中したぶどうの房切り、摘粒作業では、サポーターも足りない状況となり、人数や日数を制限しなければ、すべての依頼農家へサポートする事が出来ないほどの状況でした。そんな中で「農家の方に感謝され支援した甲斐があった。」受け入れ農家の皆さんは「慣れないのに一生懸命取組んでもらい助かった。次年度も期待します。」と嬉しい言葉があった反面、「個人差があり農作業に向いていない人もいた。」という厳しい意見もありました。今後は講習会等で技術のレベルアップを図ってゆきたいと思いますが、依頼農家の皆さんも、サポーターを育てるという気持ちで指導していただければと思います。



そば打ち体験交流会開催

験しました。

当日は、来賓として市から三木市長、市議会から善財副議長、浅野経済建設委員長にもご出席願ひ、新そばを味わっていただきました。

去る2月14日(土)、豊丘活性化施設その里ホールにおいて、市農業委員会主催で開催されました。この交流会は、遊休農地を解消する目的で農業委員自らがそばを栽培し、収穫したそば粉を使って、農業サポーターの方々と共にそば打ち体験・試食をして、併せて意見交換を行い交流を図ることを目的に実施いたしました。

地元豊丘地域づくり推進委員会のみなさんに指導していただき、全員でそば打ちを体験しました。

特今回は、最近話題となっている南米原産の「ヤーコン」をつなぎに使ったそばも打ち、味の比較や食感の違いを確認しながら、それぞれの味も楽しんでいただきました。新そばを試食した後、積極的な意見交換が行われ、有意義なそば打ち体験交流会となりました。

ヤーコンには

望岳台 佐藤 貞枝

「柔らかすぎちゃったあー。」
そば粉と水の加減がとても難しい。

かたくこねたそば粉と半々にして、お仲間と打ち始めた。そば打ちは、赤ちゃんをあやすように、優しくあたたく扱わないとひび割れてしまう。中々デリケートな代物だ。

そば打ちの先生は、腰が入って自然でリズムカルで楽しそうに見える。そば切りも均一にいかず、きしめんのように巾広く切れてしまった。それ



あった。」受け入れ農家の皆さんは「慣れないのに一生懸命取組んでもらい助かった。次年度も期待します。」と嬉しい言葉があった反面、「個人差があり農作業に向いていない人もいた。」という厳しい意見もありました。今後は講習会等で技術のレベルアップを図ってゆきたいと思いますが、依頼農家の皆さんも、サポーターを育てるという気持ちで指導していただければと思います。

鳥獣害対策に関する建議書提出 —— 猪による被害が急増 ——

近年、猿、猪、かもしか等の鳥獣による農作物被害が増加しています。

特に井上地区や豊丘地区等では、猪により果樹・一般作物・水稻等広範に被害が拡大しており、大変深刻な問題になっております。このため、市農業委員会では現地調査を行い、被害状況の把握に努めてきました。その結果、鳥獣害対策については、引き続き強化の必要があるとの結論に至りました。平成15年11月17日、市農業

職員の人事異動

4月1日付の人事異動で、経済部農林課、農業委員会事務局の職員に次のとおり異動がありました。

(一) は前任の職名、職場転出

- 健康福祉部長兼福祉事務所長 山岸 泰寿 (経済部長)
- 営業課長補佐兼料金係長 坂田 賢一 (農業委員会事務局局長補佐)
- 上下水道課下水道整備第2係長 滝澤 秀芳 (農林課技査)
- 税務課 原 和嘉 (農林課行長野地区農業共済事務組合派遣・須高)
- 生活環境課付(長野広域連合派遣) 黒岩 一規 (農林課)

● 生き生き農家 ●

ソバ屋さん ごめん！ ソバ作り体験記

本郷町 山崎 澄夫

「ウン、店で食べるのと同じだね」

一箸口にした時の息子の言葉。初めて一人で作った手打の年越ソバ。安堵と少々自信がついた大晦日の夜だった。

「遊休農地を借りてソバ作りをしよう」との農業委員二氏の呼びかけに、いと



もあっさり応じたのも、予てより手打ソバ作りをしてみたいとの思いがあったからだが、それは予想以上の労力を伴うものだと知った四カ月だった。

農家に嫁いで

辛い作業を忘れさせてくれる収穫の幸せ

境沢町 永田 直美

を覚えています。

独身の時は、農業のことは全くわかりませんでした。結婚する時両親が、あまりにたくさんブドウ畑があるので大丈夫だろうか心配していましたが、私は何を心配されているのかわからないほどで、ただ、早起きは辛いなぁって思うくらいでした。

初めは、荷造り作業を手伝うくらいでした。巨峰のパック詰めは意外と楽しかったの

境沢町 永田 直美
ばかりではありませんでした。花切りの時は一日遅れると良い実がつかないし、摘粒は腕を上げっぱなしなので、普段でも肩こりなのに一段とひどくなるし。忙しくて買い物に行く時間ももちろん、夕飯を作る時間もないほどです。それに何と言っても暑さ。夏の日差しや暑さに弱い私にはか

男女総勢十六人、八木沢川沿いの竹藪の脇、少々日照りの悪い休耕田に集まり耕運、雑草拾い、種を播いたのが八月三日だった。みんな初めての経験、播けば出るさ位の安易な気持ち、食べる時の事のみを楽しみにワイワイガヤガヤ。誰言うことなしに「竹藪そばの会」と決まって、以後、間引き、除草、土寄せと思っただけの作業。当然といえば当然。放っておいて出来るものではないと実感したが、それも多勢で取組めばこそで、楽しくもあった。

九月末に刈取りをして、脱穀と更に「唐箕(トウミ)」での選別と続き作業を終えた。結果として、予想以上の大収穫でタツプリ食べられると安堵したのだった。

● 建設課 長野 寛 (農林課付長野地区農業共済事務組合派遣・本所)
● 転入 阪牧 吉次 (学校教育課長)
● 農業委員会事務局 佐藤 国夫 (生涯学習課長)
● 農業委員会事務局係長 塩野 勇一郎 (農林課管理係)
● 農林課 小林 健治 (建設課)
● 農林課付長野地区農業共済事務組合派遣本所 佐藤 芳章 (市民課)
● 農林課付長野地区農業共済事務組合派遣須高支所 伊賀 直樹 (税務課)
● 退職 農業委員会事務局 牧 健一
● 農業委員会事務局 丹治 百子

編集後記

気持ちでいっぱいになります。最近では、デジカメにハマっていて季節ごとに変化するブドウ畑の写真を撮っています。一面に巨峰が写っているのも良いけれど、冬の巨峰畑も静かに芽吹きを待っているように、白い木々も趣があります。



雪に覆われた冬の巨峰畑

桜の花が咲く頃となり、開花予想では例年より早くなりそう。世界の年平均気温が一度上がると食料の生産量は一割減少するという。このまま行くと五十年後には、現状より三、四度上昇、人口が80数億人になると予想される。我々農業者にとっても無関心でいられない。21世紀は環境、食料、人口、エネルギー等が地球的規模での課題だと言われている。科学技術の発達で経済や生活の便利さの追求を求めているが、美しい郷土を子々孫々まで残すには、もう少しスローペースの生活もいいのかと思うこの頃です。